

ICT街づくり推進会議（第12回）

1 日 時

平成28年6月17日（金） 16:00～17:00

2 場 所

総務省8階 第1特別会議室

3 出席者

（1）構成員

岡座長、小宮山座長代理、石原構成員、清原構成員、徳田構成員

（2）政府CIO

遠藤政府CIO

（3）オブザーバ

内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室、農林水産省大臣官房政策課技術政策室、
経済産業省商務情報政策局情報経済課、国土交通省総合政策局公共交通政策部交通
計画課、同省都市局都市政策課、厚生労働省医政局研究開発振興課医療技術情報推
進室

（4）総務省

輿水総務大臣政務官、谷脇情報通信国際戦略局長、吉田情報通信国際戦略局参事官、
小笠原情報通信政策課長、加藤地域通信振興課長、飯塚地域情報政策室長

4 議事

（1）各種戦略等について

（2）ICT街づくりの普及展開に向けた取組等について

（3）マイナンバーカード・公的個人認証サービス等の利活用に関する検討状況について

（4）意見交換

5 議事概要

会議の冒頭、輿水総務大臣政務官より挨拶があった。主な内容は以下のとおり。

【輿水総務大臣政務官】

- 「世界最先端IT国家創造宣言」など、主要な政府方針が閣議決定され、これらの政府方針において、ICTの利活用の成功モデルの構築とその普及展開は、重要なテーマの一つとなっているところ。
- 総務省では、岡座長のリーダーシップのもと、これまで全国27カ所でICT街づくりの実証プロジェクトを実施し、成功モデルを構築するとともに、現在は、その普及展開を進めている。特に、センサーを活用した鳥獣被害対策や、森林クラウド、マイナンバーカードの利活用などについては、具体的に普及展開が進んでいる。
- 3月には、私自身も徳島県美波町において、スマートテレビとマイナンバーカードを活用した防災システムを実際に拝見し、地元住民の方々と一緒に避難訓練にも参加してきたが、ICT街づくりの成果が住民の方々にしっかりと根づき、活用されていることに大きく感動した。
- ICT街づくりの更なる普及展開を進めるべく、総務省としても、引き続き全力で取り組んでまいりたい。岡座長をはじめ、構成員の皆様方におかれては、ご知見、ご経験を生かした活発なご議論をお願いしたい。

(1) 各種戦略等について

事務局より資料12-1について説明が行われた。

(2) ICT街づくりの普及展開に向けた取組等について

事務局より資料12-2について説明が行われた。

(3) マイナンバーカード・公的個人認証サービス等の利活用に関する検討状況について

事務局より資料12-3について説明が行われた。

(4) 意見交換

出席者の主な発言は以下のとおり。

【石原構成員】

- ICT街づくりの横展開が進む中、具体的な成果・効果が見えてきており、将来展望がより明確になってきたと感じている。
- 鳥獣被害対策について、個別の鳥獣被害案件の解決だけでなく、例えば、ジビエとして活用すると猟師の方の収入にも繋がり、食肉加工場やレストランなどの雇用を生むことにも繋がる。こういった取組を通じて、美味しい料理と美しい農村風景を形作り、観光客が増えていくような循環型社会への発展を目指すことも必要。
- 森林クラウドについて、ICTを活用して森林資源が見える化したことは、日本の林業の革新を予感させるものであり、次のステップとして、例えば、森林経営のシミュレーションや半自動化したロボットによる伐採、運搬と組み合わせるなど、日本の林業を再び活性化させる方法は数多くあると感じている。
- 企業のICT利活用に関する取組である、雅総合研究所の取組について、自らの効率化を図るだけではなく、他の旅館も活用できるような共通プラットフォームをつくって、これを発信しようとしているところは素晴らしいと思う。ハイタッチなサービスを売り物にする伝統的な旅館でも、お客様と接しないバックヤードは効率化しないと、これからの人手不足には対応できないのではないかと感じている。今後広がって行くことを期待する。
- これまで比較的小さな街を主体とした取組だったが、今後は核となる地方都市の街づくりも必要になる。これまで数多くの現地を視察してきたICT街づくり推進会議の経験を活かして、これまででない視点から、地方の中核都市と周辺の市町村をネットワーク化して、新しい街づくりに切り込んでいければと思う。

【清原構成員】

- 平成27年度の実績として、ICT街づくりの成功モデルの横展開がまとめられているが、ICT街づくり推進会議で常に念頭に置いてきたのが、この横展開の必要性であり、それがまさに着実に進んでいるということが明らかになった。
- マイナンバーカードの利活用については、総務省が公表した「マイナンバーカード交付促進マニュアル」によって、ほとんどの自治体において具体的な交付計画が策定され、早期交付の目途が立ってきたところ。マイナンバーを利用したICT街づくりの成功モデルである前橋市の母子健康支援に関する取組や徳島県の防災に関する取組などは、子ども子育て支援が重視され地震が多発している今年の状況を考えると、より今後の有効性が期待されるものである。
- これまで取り組んできた小規模の自治体だけではなく、今後、比較的大規模な都市に

において更なる取組を検討していきたいという方向性について賛同する。例えば、政令市などではICT街づくりのより高度な発展が見込めるとともに、加賀屋さんのサービス改善事例のような取組が他地域へ横展開されることによって、国全体の産業振興にも貢献できる可能性を感じている。

【徳田構成員】

- ICT街づくりの成功モデルについて、これだけ色々と良いものが集まってきているので、それをウェブページやドキュメント、ニュースアーティクル等で、できればベストプラクティスを国内外向けに英語等で見やすい形にして発信することが望ましい。
- マイナンバーカード利活用についても、他の塩尻モデルや真庭モデルと同じように、民のレベルで色々な良い具体例を発信することで、より加速していくのではないかと。
- これまで色々な事例が出てきたが、パーティカル（垂直統合型）なソリューションが多く出てきている。それは、素晴らしいことではあるが、できれば次のステップに向けて、それぞれのデータが横断的に共有できるプラットフォームのようなものも整備していくことで、持続的な新たな街づくりの形へ進化するのではないかと。

【小宮山座長代理】

- 国がリーダーシップをとりながら、今までICT利活用が進んでいなかった地域において、課題解決に資する取り組みがなされ、成功事例と言えるまでになってきたというのは、非常に良い取組であり、評価すべきである。
- 地域毎に抱えている課題、対応の現状、有効な対策等が異なるため、普及展開にあたっては、地域の現状を踏まえた上で適切な措置を講じていくことが、その加速度を高める上でも重要である。
- マイナンバーカード交付については、国が大きな方針を定めるとともに、取得にかかる手間をさらに軽減することが、発行枚数の拡大に貢献するのではないかと。発行枚数が増加し、インフラとして利用可能になれば、利用者がより利便性の高いアプリケーションを考える、といった良い循環ができると思う。

【遠藤CIO】

- 以前から何度か申し上げていた事業継続性について、かなりの工夫がされているようで、前橋市のTOPICのように、他地域へも働きかけ横展開そのものを実施することで、他地域でも恩恵をもたらすという試みをされているのは大変良いことだと感じた。時間はかかったが、こういった動きになったことは大変喜ばしく、さらに加速し

ていただきたい。

- 自治体が何か新しいことをやろうとすると、これまでやったことがないことをやるので非常に大変。それでも一部自治体には既に先進的な取組を進めているところもあるため、そういった自治体の方々がされていることを聞き取り、場合によっては、現地に行ってお話を聞いてもらい、それを整理したものを、これから取り組む自治体に持っていくということを国がやらなければいけないのではないかと。
- 以前、農地の情報をインターネットで閲覧できるように法律で定めたが、その際、各自治体にある農地台帳を、バラバラのままデジタル化しようとしていた。そのため、農地台帳を全国で統一して取り組んだところ、昨年の4月から動き出して、初月からアクセスが3万件以上あった。みんなが使いやすいということ、全国統一の共通データベースを1つ作るということが非常に大きなキーポイントであり、これから横展開をしていく上でも、どういうところが一番ベースになって始まったことなのかということが、統一したデータバンクなり事例バンクの中に入っていないと、上のところだけ見ても役に立たない。

【岡座長】

- 皆様から大変前向きなお話をいただいて嬉しく思う。成功事例が多く出てきており、少しずつ横展開も進みつつあるので、引き続き継続し拡大していくが重要。そのためには、やはり各自治体の首長のリーダーシップと、住民の方々の参画意識がないとうまくいかない。
- これまで、中核都市程度の規模で実施してきたこともあるが、今後、政令市のような比較的大きな都市でも、ビッグデータなどをうまく活用しながらICT街づくりを推進していくことを検討してはどうか。
- 国民の立場からしたら、マイナンバーカードを持っているメリットはやはり医療だと感じている。前橋市のモデルを更に成功させて、これを全国に発信していくことにより、マイナンバーカード普及に貢献できるが、マイナンバーカードを成功させるためにも、国民が利便性を感じるような利活用シーンを見せていく必要がある。

以 上